

ぶらっと山歩（さんぽ）

コロナウィルス騒動からの脱出/その3

～新緑まぶしい布引周辺の歴史散歩へ～

写真と文 吉野 宏

年度行事の中で最も重要な定時総会の中
止から50日余りが過ぎた。まもなく迎える
ゴールデンウィークも、緊急事態宣言中の
期間であり、不要不急の外出、特に県外
への移動は自粛をきつく要請される毎日
である。

本来ならば開催して楽しい思い出を刻
んで頂けたであろう例会の大半を、中止
又は延期にせざるを得なくなった為、参
加を予定されておられた皆さんは大変
残念な思いをされておられることだろ
う。年間が一番爽やかな季節
と言うのに・・・



川崎財閥の創始者が建てた布引徳光院（禅寺）

曇り空や、ぐずついた天気が続いていたが、
今日は明け方から青空が広がっていたので、
人との接触頻度の少ない時間帯にと
思い、短時間の「ぶらっと山歩（散歩）」
に出かけることにした。

車を徳光院境内前に置き、歩き出す。
布引みはらし台へは毎朝1番に来て小屋
を開け、ゴミ類の収集と諸用事を済ませ
た後、趣味？の銭湯（灘温泉）へ車で
行く。したがってみはらし台へは、本
日2回目と言うことになる。

今日は行かぬが、布引城山へのコース
は、猿のかずら橋（旧名：猿のかけ橋）
を渡って急な尾根を辿るのが早い。城
山の標高は316.5m、赤松円心ゆかり
の滝山城があった

場所である。今でも多くの曲輪（くるわ）
群、堀切（ほりきり）、土塁（どるい）
などが鮮明に残っており、戦国時代の
縁（よすが）を感じることに出来る
貴重な城山である。



布引城山の曲輪



布引城山の堀切

北野町と布引ハーブ園を結んでいる布引
ロープウェイを真上に見ながら進み、布
引溪谷を跨いでいる「谷川橋（重要文化
財）」を渡って進むと、正面に布引ダム
（貯水池）が見え、右側には滝が見え
るが「五本松かくれ滝」の名称で呼ば
れている。私がヒヨコに入会し、早朝
登山に精を出していた頃、大先輩達
は



五本松かくれ滝（旧称・浅見の滝）

確かこの滝を「あさみの滝」と呼んで
いたの

にな～？と思って水道局OBのN氏に調べてもらっていたら、「浅見の滝」の名が入った貴重な絵葉書を見つけてくれた。やっぱり聞き覚えた記憶に間違いなかった！！と思い、なぜ「浅見」の名がついたのか？調べた。・・

結論から言うと、明治33年に完成したこの布引ダムの建設に拘わった浅見忠次氏（当時は神戸市土木課職員）が、陣頭指揮をしながら難工事の末の放水路で、その功績をたたえ、この放水路を「あさみの滝」と呼ぶようになったようである。事実、浅見忠次氏の名が刻まれた銘板がダムのコンクリートの内側に埋め込まれているのを確認させて頂いた。



上・布引ダム/五本松堰堤（ダム） 吉野撮影

下・建設当時の写真（インターネット画像より）

現在の写真（上）と同方向から撮されたものか？。そ



うならば向かって右側に放水路は作られているのだろう。

ちなみに現在の名称「五本松かくれ滝」は「通称・浅見の滝」と呼ばれていたことを知らなかった神戸市の担当者が、無名滝では忍びないと、平成18年に滝としての名称を募

集し、応募作の中から選んだものである。

浅見忠次氏の名は、明治43年に神戸で出来た初めての登山会「神戸徒歩會」の会員名簿にも見られ、名だたる登山家といっしょに、幹部の一人として名を連ねておられる。

貯水池の左岸側から城山方面を見ると、昔は木々も背丈がそんなに高くなかったので、稜線全体のスタイルが、観音様の寝姿にそっくりであったため「寝観音山」などと呼ばれていたのを記憶に留めている。しかし今は、どう見てもその面影を感じることは出来ない。



寝観音・と呼ばれていた城山方面

水道施設の分水隊道を横に見て、北側入口に出る手前に大層な記念碑が目に入ることだろう。これはすぐ先にある紅葉茶屋を起点として活動していた「養気登山會」という会の創立10周年を記念して、昭和12年6月に神戸市が桜の苗木200株を寄贈した記念のもので、貯水池畔の手入れ等に尽力していた会を讃えたのであろう。それにしても大層なものを作ったものだ。



創立10周年記念として贈られた桜の苗木を記す記念碑

養気登山會の碑は紅葉茶屋の前の土地に建て

られており、建立年は定かでないが、「養氣會碑」と刻まれている。時代背景から推測して、あまり騒ぐことのなかった時代、せめて山の清々しい空気と酒があれば養氣になれる、みんなで楽しく陽気に行こうぜ！・・だったのでしょね！コロナが1日も早く終息し、私達も又「養氣は陽気に！！」と行きたいものです。



上・養氣會碑（会長：久保源兵衛）
下・布引紅葉の茶屋（名物/すき焼）



市ヶ原の手前にあった「あけぼの茶屋」は随分前に閉店し、最近不動産屋の売り物件となっている。昔はここでよく飲ませて頂いた。イチロー選手が恩師と仰ぐオリックス時代の仰木監督と出会い、数度ビールとおでんでご一緒させて頂いたのも懐かしい思い出だ。



懐かしい「あけぼの茶屋」

桜茶屋（主が亡くなって後、偶にしか開かぬ）から河原へ降りると再度山方面からの出会いとなる。ハイカーのいない河原はヤケに広く感じられ、河原の白さ、鮮やかな黄緑の木々、それに真っ青な空のコントラストがなんとも美しい！！・・コロナなんて何処の国の話？・・と一瞬思うほど静かで美しい風景だ。



上・市ヶ原の河原の風景

下・右側は現在の橋と橋桁。

左の水の中に壊れた昔の橋桁が見える



その昔、神戸の北側に住む人達と南側に住む人達が山の幸・海の幸を持ち寄って、お互い売り買ひする「市」が開かれていたということである。当時は結構賑やかで活気に満ちた場所であったのだろう。

橋を渡ってしばらく行くと、右手方向は

「蛇ヶ谷經由再度公園方面」との標識に出会う。

秋は見ごたえのある紅葉の道だが、今は鮮やかな緑のハイキング道である・・・が、紙面の関係で報告記事はここまでとします。尚、
～再度公園～森づくり道～再度山頂～大龍寺
～善助茶屋跡～城山跡～布引徳光院～の
コースで、今回の山歩（散歩）は終了。